

鉄骨アパート2戸を統合し、80㎡余りの広さのなかに箱状の機能空間を分散配置する。その間の「スキマ」に多様な性格を持たせた実験的作品。床が余ってくるこれからの時代の設計手法のひとつになり得るか？

リフォーム前後の写真



撮影：Yasuo Awane

・リフォームの動機/設計・施工の工夫点/施主の感想・満足度 / 住宅の価値を向上させた内容など

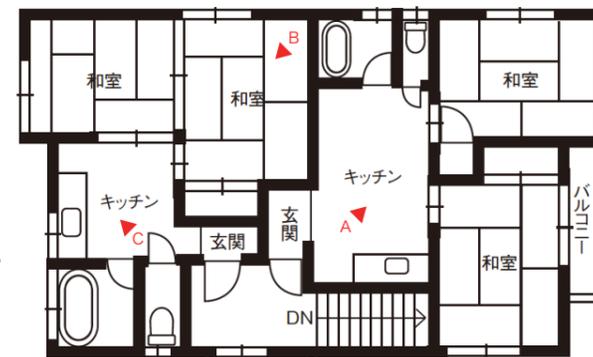
【リフォームの動機】
築38年、鉄骨2階建アパートの2階2戸を改修し、個人住宅1戸へとするため。
作することでスキマは窓になり、縁側になり、路地になり、庭になり様々な光や影が空間に奥行きを与えます。限定された空間内において、数字に現れない広がりを得られないかと考えた住宅。

【設計・施工の工夫点】
壁、天井の仕上げを限界まで薄くし、最大の気積を確保したうえで、あえて無駄ともとれるようなスキマを設け、小さな部屋を配置していきます。
そして、そのスキマを身体スケール、視線、気配などに配慮し緻密に操

性能向上の特性	特に配慮した事項
耐久性、温熱環境、室内空気環境	既存が無断熱であったため、室内の天井、床、壁に吹付断熱を施すことで、最大限の気積の確保と断熱性能向上の両立に努めました。

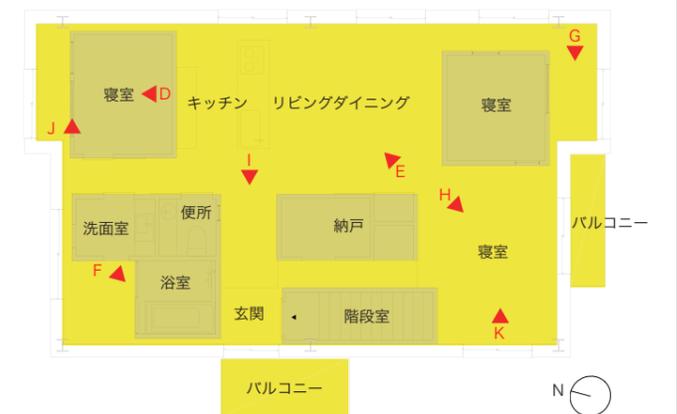
データ			
所在地	広島県呉市	築後年数	38年
該当工事面積	83.25㎡ / 総工事床面積 83.25㎡	施工期間	150日間
居住者構成	15歳以上65歳未満：3人、65歳以上：0人、15歳未満：0人、ペット：犬1匹	該当部分工事費	1,000万円 / 総工事費 1,000万円

リフォーム前



S=1/150

リフォーム後



S=1/150

リフォーム部位：■居室 / ■台所 / ■浴室 / ■便所 / ■洗面所 / ■廊下 / ■階段 / ■玄関 / □エキステリア / □マンション共用部分